令和７年度８０２０公募研究事業
研究報告書抄録（採択番号 25-3-08）

研究課題名：病棟勤務看護師の口腔健康管理に対する認識と歯科に対するニードの解明

研究者氏名：鈴木 啓之[1]，畑中 幸子[1]，大澤 淡紅子[1]，下平 修[1]，木村 有子[2]，古屋 純一[1]

所属：1）昭和医科大学 大学院歯学研究科 口腔機能管理学分野

2）昭和医科大学 大学院保健医療学研究科 リハビリテーション学科 作業療法学専攻

【緒言】

入院患者に対する口腔健康管理は，誤嚥性肺炎の予防，経口摂取支援，口腔機能や全身状態の維持・改善を通じて，治療経過や転帰に影響しうる重要な要素である．しかし，歯科専門職がすべての入院患者に直接介入することは必ずしも現実的ではなく，病棟看護職が日常的な口腔ケアの中心的担い手となる．一方で，看護職による口腔ケア実践には，教育面や業務体制上の課題が存在する可能性がある．本研究は，病棟看護職を対象として，入院患者への口腔ケアに対する認識・実態，および歯科との連携や歯科に対するニードを明らかにすることを目的とした．

【方法】

昭和医科大学附属病院の病棟勤務看護職を対象に，無記名 Web アンケート調査を実施した．調査項目は，回答者属性，入院患者への口腔ケアに対する認識・実態，歯科との連携・ニードとした．2026 年 3 月 31 日時点の回答 499 件のうち，同意せず終了した 22 件および対象外 13 件を除外し，464 件を解析対象とした．集計は単純集計により行った．

【結果】

口腔ケアを優先度の高い業務と捉えている回答者は 62.9%であった一方で，口腔ケアに関して十分な教育を受けていると感じている回答者は 29.5%にとどまった．また，歯科との連携・協力が必要であると考える回答者は 93.1%であった一方で，現在の歯科との連携状況に満足している回答者は 33.1%であった．口腔ケアを困難とする要因としては，患者の拒否（66.6%），マンパワー不足（65.1%），時間的制約（64.0%）が多かった．歯科に期待する内容としては，入院患者に対する専門的ケア（63.6%），病態別口腔ケア法に関する指導（56.5%），口腔ケアマニュアルの作成（52.2%）が多く，歯科から受けたい情報提供としては，口腔の状態が悪い患者の口腔ケア方法（69.4%）が最も多かった．

【考察】

病棟看護職は，入院患者への口腔ケアを重要と認識していたが，実践には教育面および構造面の課題が存在していた．また，歯科連携の必要性は高く認識されていた一方で，現状の連携体制は十分とは言い難かった．以上より，入院患者に対する口腔ケア体制の充実には，歯科専門職による専門的介入のみならず，看護職による日常的な口腔ケア実践を支える具体的支援を含む連携体制の整備が臨床的に重要であると考えられた．